

令和6年度 第1回大津市社会福祉審議会 障害者福祉専門分科会 会議結果

- 開催日時 令和6年4月25日（木）15：35～16：55
- 場 所 大津市役所 新館7階 大会議室
- 参加者 委員：8名（欠席1名）、事務局：6名、傍聴者：0名
- 議 題
 - （1）障害者福祉専門分科会長の選出について
 - （2）障害者福祉副専門分科会長の指名について
 - （3）令和6年度の予算概要について【資料1】
 - （4）障害者数等の推移について【資料2】
 - （5）施設整備の進捗状況について【資料3】
 - （6）おおつ障害者プランについて
 - （7）その他

▼開会

▼議題

（1）障害者福祉専門分科会長の選出について

事務局提案にて、中崎委員が会長に選出された。

（2）障害者福祉副専門分科会長の指名について

会長指名により、田村委員が副会長となった。

（3）令和6年度の予算概要について【資料1】

<事務局>

事務局から説明

<委員>

自動車改造費用の助成について、身体障害者手帳3級では受けられないが、手帳の等級ではなく、障害の状況に応じた対応をしてほしい。

<事務局>

要綱では対象者は重度で、1・2級となっている。一方で一定の要件は必要で、対象を広げると予算も必要となる。ご意見としてうかがわせていただく。

<委員>

避難行動要支援者も1・2級となっているが、半身不随でも4級の方がいる。私は2級だが身体は動く。等級ではなく、障害の内容によって拾い上げてほしい。

<委員>

高齢者の認知症が増えており、地域の反対で施設ができないようなこともあると聞いている。空き家をグループホームに転用するような発想の転換はできないか。

＜事務局＞

民間事業者により空き家を活用したグループホームの整備が進んでいる事例はある。ただし一軒家だと、人数や2階の対応などの問題がある。

報酬改定により地域連携が必要となっており、どのように実効性があるものにしていくか今後の課題である。

（４）障害者手帳所持者数等の推移について【資料２】

＜事務局＞

事務局から説明
（特に質疑なし）

（５）施設整備の進捗状況について【資料３】

＜事務局＞

事務局から説明

＜委員＞

浴室の手すりはどういう意図で設置されているのか？カランの近くというのは危険な気がするし、介助者にとっても不自然な位置ではないか。

＜事務局＞

施設に確認する。

（６）おおつ障害者プランについて

＜委員＞

施設の質の担保や不正受給をどう把握するかも重要で、日常的に点検できるような体制が必要ではないか。安全管理についても、障害児の飛び出し事故があり、国でも研究がなされている。

施設の数が増えるのは良いが、質や安全をどうするか議論していかなければならない。

＜事務局＞

思いは同じであり、車内の置き去りが問題になった際には、安全装置に国の補助が出るようになった。利用される方が安心安全に利用できることが重要。

質の担保については、福祉指導監査課と連携しているが、回数などの課題もある。集団指導や研修、自立支援協議会の活動などを通して、市全体の質の向上を図りたい。

＜委員＞

合理的配慮が義務化されたが、経済的なこともあり、民間では段差解消などはなかなか実施できない。補助の予算を組んでほしい。障害の種類が違ってみんなで食事ができるような社会になってほしい。

防災について、福祉避難所の整備を進めてほしい。

＜事務局＞

差別解消の具体的な施策はプラン本編の 38 ページから記載しており、合理的配慮につ

いては提供事例集を作成し周知啓発している。ハード面での対応としては県補助があるが、市でも補助するかは検討課題であると考えている。

防災については 49 ページから記載しており、個別避難計画などとあわせて防災部局と連携しながら進めていきたい。

<委員>

県補助は5万円で、経済的にはこれだけではなかなかできない。

<委員>

いろいろと問題はあるとは思いますが、予算全体の中で半分近くを福祉に回してもらっているのはありがたい。昔に比べると福祉の施策は良くなっている。

一方で心の問題というのはあると思う。アメリカではもっとフランクに障害について語れる。障害はハンデはあるが決して恥ずかしいものではなく、堂々としていればいいと思う。いろいろな人がいるということを、小さい頃からの教育が大事だと思う。

<委員>

小学校の頃から、特別支援学級と普通学級の交流を行っていった中で、車いすの人を自然に助けるような子も出てきている。

<委員>

施設の設置にあたり、地域の反対などが起こることもある。障害福祉に限らないインクルージョン教育をしていただければと思う。

<委員>

精神障害は身体障害のように目に見えず、病院につなげることや地域の理解を得ることのハードルが高い。そういったことにも配慮してもらいたい。

<委員>

学校教育より早い幼児期からの理解も重要。障害に限らず自然にその人を理解していけるような地域を作っていくことが重要で、その連続性としての学校教育があると思う。

<委員>

当事者にとっては3~4月の職員の退職や異動でショックを受けることがあり、人材の不足を感じる。Gスクエアなど建物の整備が進んでも、担う人材が集まるか心配。

報酬改定で加算が増えていることはあるが、一方で現場の仕事は増えている。国と現場の間にはギャップがあり、間に市が入ってうまくやってほしい。

<事務局>

今回は委員の出席も多く、それぞれの分野でご意見をいただけて良かった。プランの取組は今後の分科会でも報告していくので、また忌憚のない意見をもらえればありがたい。

(7) その他

<事務局>

次回の分科会は、令和7年2月頃の開催を予定している。

<会長>

ほかに意見・質問がないようなら、これにて第1回の会議は終了する。

1 6時55分終了